



図 ホスピレート認証マーク

社会を動かすのは、九割九分までが男だが、男を動かすのは女の力なのだ…。

高木彬光『白昼の死角』（角川文庫）

ejnet と病院評価事業

早いもので ejnet(2008 年 1 月末現在、会員 410 名)が設立されて丸 3 年が経ちました。元はと言えば、私の母および自身の個人的体験を踏まえ、女性医師が子育てしつつ第一線で働き続けられる社会にするために一石を投じようと、同志を誘って行動を起こしたのがきっかけです。

ejnet の理念は、「国民のいのちの守り手であるすべての医師がその使命をまっとうできる環境をつくるために、実効性のある戦略をもって、夢をかたちに変えていくこと」であり、夢を実現するための収益事業の 1 つが、2006 年夏に開始した「働きやすい病院評価事業」（愛称ホスピレート：<http://www.hospirate.jp>）です。性別や職能にかかわらず、すべての医療従事者にとって働きやすい病院かどうかを書類（一次審査）と現地訪問（二次審査）によって ejnet が第三者評価する認証事業です。認証された病院は、ホスピレート認証マーク(図)をもって内外に告知することができます。

現在、92 病院から問い合わせがあり、8 病院が認証され、さらに 3 病院が書類審査を待っている状況です。中には認証された翌年の新規採

用医師 54 人のうち半数の 27 人が女性医師であった病院や、看護師が近隣の病院から十数人転入職してきたという例もあり、人材確保という意味でも効果が大いだと、各病院からよい評価をいただいています。

ホスピレート事業の革新性

この病院評価事業は、①従業員満足 (Employee Satisfaction : ES) の視点、②戦略的思考、③徹底した自己相対化、という 3 つの観点から発想されており、この点が医療界の中で行われる事業として他に類を見ないユニークなものであると自負しています。

1 つ目の ES の視点とは、今まで「患者さんのためには医師や看護師個人の生活は二の次」とされる文化風土のあった病院に対して、「患者さんに質のよい医療サービスを提供するためには、医療提供者も人間として心豊かに生活することが必要である」、と謳いあげたことです。若い人たちは、職種にかかわらず仕事のオンとオフの切り替えや個人生活を大切にしますので、ホスピレートは ES の大切さを訴えて経営陣に発想の切り替えを要請しています。

2 つ目の戦略的思考ですが、女性医師の継続就労の仕組みを作るというゴールを達成するために、働きやすい病院評価という新しい事業をからませたということです。資金援助も人的資源もない NPO ですので、「男女共同参画」という建前論だけ

を武器にして攻めるよりは、世の中が必要とする事業を提案したほうが、目的をスムーズかつスマートに達成できると考えています。

3 つ目は自己相対化です。私たち医師は高度専門職であり善意に満ちてはいても、ともすれば社会性が低くなりがちで、集団としての自己表現がうまくできず内向きの議論に終始し、顧客である一般市民に自分の姿がどのように映るのが見えていないことも多かったという反省があります。

市民にとっては医師が産休をとれるかどうかは関心がなく、医師が自分たちの健康を如何に十分ケアしてくれるかを重要と思うのだと知るべきです。例えば、「女性医師が出産後も働き続けることによって市民のいのちを守る豊かな医療を提供できます」と効果的に訴えることが大切です。

ejnet と病院評価事業のこれから

昨今、「政策連携の時代」と言われ、自治体と NPO のパートナーシップの有用性が議論され始めています。このあたりをヒントにして ejnet は、「小恐竜」として今年も新たな事業を提案して世の中を刺激し続ける存在でありたいと思っています。

(たきの としこ)

ejnet 代表理事/ラ・コール本町クリニック
院長：☎ 541-0053 大阪市中央区本町 3-5-2
辰野本町ビル 2 階
<http://www.ejnet.jp>